



おのみ



令和4年度 11月号
志布志市立尾野見小学校

同じ釜の飯を食べる

校長 宗岡 克英

11月7日から8日にかけて、5・6年生24人は宿泊学習に参加しました。学習場所は、鹿屋市の高隈山の麓にある大隅青少年自然の家です。活動内容は野外活動が中心で、1日目に万滝ハイキング、星座観察、2日目に野外炊飯を体験しました。2日間とも天候に恵まれ、すべての野外活動を実施することができました。宿泊学習の様子を紹介します。

1日目は、自然の家に到着後、出会いの集いを済ませ、すぐ万滝ハイキングに出発しました。標高約540mにある万滝を目指す往復約10kmのコースです。車道から一步山へ足を踏み入れると奥深い山道が続きました。子供達は、グループごとに列をつくり山の中を進みます。私も最後尾についていくことにしました。林を抜け突然視界が広がり、遠くに牧場が見えたり、道をくだったら沢に遭遇したりと、



次々に変化する景色を楽しみながら歩きました。「校長先生！ハチの巣がありますよ。」と子供達が教えてくれます。木々の向こうを見ると直径50cmぐらいのハチの巣が木にぶら下がっていました。子供達の自然観察力に驚かされます。また、難所にさしかかる度に「足下に気を付けてください。」「校長先生がんばってください。」と子供達が何度も励ましの声をかけてくれました。涙が出ます。松ぼっくりをひろいながら歩く子供もいました。聞けば翌日に予定している野外炊飯の時の着火材として使うという



ことでした。登りはじめて2時間30分後に万滝に到着しました。一人の脱落者もいません。目の前には54mの高さから水が流れ落ちる万滝がそびえ立っていました。それを眺めながら食べるおにぎり弁当の味は格別でした。



2日目は、野外炊飯でカレー作りに挑戦しました。それぞれのグループに一抱えのまきとカレーの食材が配られました。火起こし班はかまどにまきを並べ、火起こしに取りかかりました。燃えやすい新聞紙で細いまきに火を付け、徐々に太いまきに火を移していきます。火力が安定したら釜をすえました。釜底の真ん中に火があたるように悪戦苦闘していました。調理班は野菜切りに取り組みました。どの班もじゃがいもの皮むきに苦労したようです。「ピーラーはないですか？」とあちらこちらから聞こえてきます。もちろんありません。火起こしと野菜切りでは苦労しましたが、あとは煮込むだけで1時間30分後にはカレーと御飯が出来上がりました。火加減、野菜の切り方、水の量が異なっていたため、カレーの味は活動グループで若干異なっていました。でもどのグループのカレーも最高に美味しかったです。自分たちで力を合わせてつくったものは何でも美味しいはずです。



「同じ釜の飯を食べる。」という言葉があります。文字通り同じ釜で炊いた御飯を食べるという意味です。加えて、同じ時間を共有して苦労しながらがんばるという意味もあります。今回の宿泊学習で、同じ時間を共有して万滝に登りました。そしてみんなで協力しながら釜で御飯を炊き、カレーをつくり、食べる事ができました。同じ体験を共有することによって5・6年生24人の絆をさらに深めることができました。そして、私自身も5・6年生の皆さんと同じ釜の飯を食べるによって心の距離が縮まった気がします。